平成14年7月19日（第三種郵便物認可）　令和6年11月15日

地域母子保健福祉情報紙 No.286

親子保健

おやこほけん

公益社団法人 母子保健推進会議

定款第1章第3条　目的（抜粋）
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り　たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

健やか親子21全国大会によせて　切れ目のない支援に求められること

令和6年度「健やか親子21全国大会」が皆様をお迎えして開催されますことに、こころからお喜び申し上げます。

コロナ禍から研修や会議が対面、オンライン、そしてハイブリッドとさまざまなパターンで開催され、参加しやすくはなりましたが、リアルでお目にかかれる対面開催は、資料だけではなくその後の情報交換など持ち帰る情報量が多く、対面開催に勝るものはないと思います。みなさまが多くの情報を得られますことを願っています。

児童福祉法等の改正により、今年度から母子保健と児童福祉等が連携して取り組むこども家庭センターが、市区町村の努力義務として設置され始めました。令和6年5月1日時点の、全国の市区町村1,741自治体におけるこども家庭センターの設置状況等は50.3％です。こども家庭センターは「虐待への予防的な対応から個々の家庭に応じた支援の切れ目ない対応など、市町村としての相談支援体制の強化を図る」とされています。

尋ねたいことを聞くのではなく信頼関係を築くことから

「切れ目ない対応」はどういう状態を指すのでしょうか。サービスや支援の紹介をする、紹介だけではなく、そこへのつなぎをすることをイメージしますが、実際に支援される方が利用したかどうかはわかりません。筆者は全国妊娠SOSネットワークの代表理事も務めています。匿名で相談できる予期せぬ妊娠の相談窓口では、産科医療機関を受診したかどうか、未成年なら親に相談したかどうかをまず尋ねるのではなくて、困っていることを把握します。そこから信頼していただき、関係機関につなぎます。「切れ目ない対応」のベースには、信頼関係があることが重要なのです。

佐藤拓代会長

地域住民が子どもを持ったとき、おそらく初めての行政機関との出会いとして市区町村保健センターで妊娠届出を行います。保健センターの保健師等の専門職は、尋ねたいことがたくさんあることでしょう。個室を確保し、性行為についても話せるゆったりとした話の中から、尋問調にならないようにこころがけ、信頼関係をつくります。信頼関係ができると、子育てで起こってくるさまざまなことを、地域住民自らが相談しやすくなります。

裸のか弱い人類は、太古から支え合って子育てをしてきました。信頼関係のある相手、支援者の肌のふれあい、息づかい、やさしい声でのねぎらいは、親子が未来に向かって歩む力となったことでしょう。今だからこそ、ひとりぼっちにしない、自己責任にしない、お節介支援を行いたいものです。

公益社団法人 母子保健推進会議
会長　佐藤　拓代

今月のページ

健やか親子21全国大会によせて：切れ目のない支援に求められること …… 1
祝・49名と1団体の皆さまに心よりお祝い申し上げます …… 2～7
紙上セミナー：8020の里づくり「子どもの口の機能の発達」 …… 8
子育て“ピアカフェ”を開催して：NPO法人とちぎみらいwithピアの活動から …… 10
「8020の里賞（ロッテ賞）」決定！：創意工夫に満ちた活動手づくり媒体に …… 11
令和6年度 子育て世代支援者養成セミナーのご案内／編集帖 …… 12

祝 49名と１団体の皆さまに

令和６年度「健やか親子21全国大会（母子保健家族計画全国大会）」において、地域で母子保健の向上のために、それぞれの専門性や立場で、長年尽力され功績をあげられた方々に対して、その労苦に敬意と感謝の意を表するため「公益社団法人母子保健推進会議会長表彰」をお受け取りいただくこととしている。本稿では、表彰を受けられる個人と団体の功績の一端を紹介する。なお、紙面の都合により以下のとおり省略する。昭和＝S、平成＝H、令和＝R、母子保健推進員＝母推

※功績紹介にあたっては推薦依頼時に了承を得ています。

個人の部

【北海道】齊藤久美子（母推）H11より現在まで留萌市母推として、住民と行政のパイプ役として、訪問時の種々の相談にも丁寧に対応して、保健師に伝え、母子保健の向上に寄与している。また定期的に受ける研修会にも積極的に参加しその知識を必要としている住民に伝え、さらに乳幼児健診での計測や託児などの事業にも積極的に協力し、25年余にわたり、母子保健の向上に尽力している。

【岩手県】菊地淑子（保健師）金ケ崎町の保健師としてパパママセミナーの開始、夫の育児支援、祖父母の子育てセミナー、虐待防止の相談業務、妊産婦メンタルヘルス事業の導入にも携わるなど、時代の変化に沿った事業を導入。子育て世代包括支援センターについては設置準備から運用を、子ども家庭総合支援拠点では母子保健と児童福祉双方の視点から相談支援、R5年3月からは国の出産・子育て応援事業を開始、「伴走型支援」と「経済的支援」の双方を統括して支援する体制を構築、長年にわたり、母子を取り巻く環境の変化に合わせ、地域の母子保健に献身的に貢献。

【岩手県】滝澤福子（保健師）H4一戸町に入庁、これまでの幼児教室に新たに個別相談を実施、保育施設との連携を図る。産前産後の課題の解消のため「支援が必要な家庭のふるいわけ項目」の活用を企画立案し支援の必要な妊婦の把握を行い関係課に繋げ、複合的な課題をもつ家庭も支援につなげる体制を確立。乳児家庭全戸訪問は生後2か月までの訪問を確立。H30から2週間後産婦健を実施、産後うつ、乳房トラブルなどの防止につなげた。子育て世代包括支援センターの体制整備に中心的に関わり、また母子アプリの導入、月齢ごとの育児支援教室、中学生向け思春期講座等を実施するなど、母子保健に広く貢献。

令和５年度 全国大会であいさつする佐藤会長

【秋田県】尾留川公子（助産師）東日本大震災における被災地、避難所におけるアロマテラピーのハンドトリートメントによる心の健康や岩手県助産師会としての母子保健活動を行い、秋田県では「母と子の助産師ステーションあきた」での電話相談や育児相談を行い、地域母子保健活動を基盤に県民の健康増進に貢献した。夫の転勤に伴い新潟県、宮城県、秋田県に渡り一貫した周産期ケアを行い地域での母子保健活動に尽力した。

【栃木県】舘脇悦子（保健師）精神疾患を抱える母親が安心して子育てできるようネットワークの強化や支援者の人材育成に精力的に取り組んだ。また高校生や大学生を対象としたピアカウンセラーの養成など思春期保健対策の充実強化にも尽力した。低体重児とその家族支援を目的に栃木県版リトルベビーハンドブックを作成、新生児マススクリーニング検査に脊髄性筋萎縮症と重症複合免疫不全症を追加、全額公費負担とし全国に先駆けて開始、R５年度健やか親子21全国大会の幹事県の事務局として大会を成功に導くなど、母子保健の向上に広く貢献。

【埼玉県】齋藤延子（歯科衛生士）H5から現在まで、埼玉県朝霞地区の５市１町の１歳６か月児及び３歳児の歯科健康診査において歯科衛生士として務め、乳幼児のむし歯予防に尽力、また同年より、同地区の小学校、中学校、特別支援学校においてもブラッシング指導、むし歯予防、歯周病予防などに具体的な指導方法を取り入れその効果を上げた。さらにH23年より学校担当責任者として養護教諭、先生との連携を図り、児童、生徒の歯科指導に務めるなど、こどもの歯科保健の向上に貢献。

【埼玉県】中山玲子（保健師）H9の母子保健事業の権限移譲以降、10か月児相談の健診化、２歳６か月児歯科健診の開始、遊びの教室、言葉の教室などを立ち上げシステムの構築を図る。母子愛育会に対しては、会が市と協力し自立した事業が出来るように支援・協働し、白岡市母子愛育会はH24に母子愛育会全国大会にて総裁表彰受賞、H28年には秋篠宮紀子妃殿下の幼児教室への訪問を受ける。さらにR２年第２次しらおかはぴすイッチプラン(第2次白岡市健康増進計画・第２次食育推進計画・第１次自殺対策計画)の策定に中心的な役割を果たすなど、市民が健康で幸せに生きることへ尽力した。

【千葉県】島森孝恵（助産師）千葉県では初となる助産師会を代表して市町村との災害時母

心よりお祝い申し上げます

子支援協定をH25年に締結、「助産師による災害時母子支援マニュアル」を作成し、会員の災害時支援への意識を高めることに尽力。7市と災害支援協定を結ぶ。防災訓練には積極的に参加し、市民に「助産師の仕事」などをアピール、妊産婦や乳幼児が要配慮者であり周りの人たちの支援協力が必要なことや安全安心(不安の軽減)のため、災害時だからこその工夫をした子育てをとブース展示や体験の企画運営をするなど尽力。

【千葉県】仙田昌義（医師） H18より救急外来における小児科医シフト制勤務の体制調整に尽力、夜間時間外の小児科救急患者の診療を最初から小児科医が担当することになり、救急外来における小児特有の症例の見落としを減少させ、保護者の満足度を上昇させた。さらに、加害者を恐れるあまり被虐待児を見過ごさないようH18、院内虐待対策チーム「家族支援チームFAST」を結成し、さまざまな部署の関係職員が連携できる体制を整備。また院内外で児童虐待防止のイベントや数多くの講演、関係学会等の多くの委員、役員を務めるなど、児童虐待防止に多大に貢献。

【神奈川県】河村寿宏（医師） H12年に不妊治療専門施設を開設以来24年間にわたり、体外受精を中心に不妊治療に従事するとともに、学会等での論文の発表は共同発表を含め200本以上となり、日本受精着床学会学術貢献施設に認定された。また、県産婦人科医会では周産期医療と生殖医療の橋渡しを、横浜市では各種指導者研修講師を務めるとともに、複数の大学病院等との生殖医療の連携研修施設として産婦人科専攻医に対して教育指導。不妊治療専門施設として、２万５千名以上の児を送り出すなど、少子化対策に貢献。

【神奈川県】丸山照美（助産師） H11に母乳相談を専門とする助産院を開業、常に母親に寄り添いながら妊娠中から産後にいたるまで母乳育児支援をはじめ、子育てや生きることに前向きになれるようなサポート活動を実施。H13年度から秦野市の妊産婦新生児訪問等実施すると同時に父親母親教室の講師として幅広く母子保健事業に関与。さらに市の委託を受け、産後ケア事業（日帰り型・訪問型）にも取り組む。これらの長年の活動から市長との鼎談を行うなど行政、市民両方から信頼が厚い。

【富山県】村上良子（母推） H17より活動。「ママのリフレッシュ教室」や「離乳食教室」で母親が安心して参加出来るよう託児を行う一方、母親に寄り添い悩みを傾聴するなど相談相手を努め、母親の孤立化の予防と育児不安の軽減に尽力。また親子の触れ合いの大切さを伝えるため「すくすく教室」における大型絵本の読み聞かせ、「パパママ教室」における育児の大切さの啓発など育児支援について先導的な役割を果たした。H29からR３まで上市町母子保健推進員協議会会長、富山県母子保健推進員連絡協議会理事を務め、会員からの信頼も厚く会の発展に寄与。

【石川県】延命早苗（母推） H14年度より中能登町母推に就任。母子が安心して健診を受けられる雰囲気を作ることや保護者の相談相手になることなど献身的に活動してきた。特に幼児歯科健診における記録の補助については大きく貢献。また「簡単にできる手づくりおもちゃ」を母推で考案・作成し、乳幼児健診の場で紹介する等、親子の愛着形成が進むよう創意工夫を凝らす。母子保健推進協議会副会長、会計などを歴任。会員、行政、母親からも信頼が厚く、長きにわたり地域母子保健事業に貢献、その功績は非常に大きい。

【石川県】吉崎美子（母推） H７年度県の「すこやか女性支援事業」を受けて子育て中の女性による主体的な学習会「HIPS」の会計係として運営を支え、その明朗快活な人柄に多くの人の信頼を得る。当時発生した「阪神淡路大震災」を身近な課題として捉え「我が家からできる防災対策」をテーマに日頃の備えや応急処置の仕方など幼い子を持つ母親の視点から勉強会や講師依頼など積極的に行う。健診時の受付や計測補助では、市民目線から行政と市民とをつなぐ大切な役

割を担い地域啓発に尽力され、27年間にわたる活動の功績は大きい。

【福井県】岩田順子（保健推進員）小浜市の保健推進員として14年にわたり受け持ち地域の声かけ訪問や子育て教室を長年に渡り行うとともに、妊婦や乳幼児を育てる保護者の身近な相談役としてコミュニケーションを積極的に行ってきた。また独自に未入園のこどもと保護者を集め遊んだり、交流を深めるサークル活動を定期的に開催、継続して地域とのつながりを深めている。また、生活習慣病健診の受診勧奨など、地域の健康づくり全般にわたり活動、その功績は大きい。

【福井県】高橋和枝（母推）H９より坂井市母子保健推進員として活動。母子保健事業の受付、健診時の計測補助、妊婦訪問時のアンケート回収、幼児健診の受診勧奨等、市の母子保健事業を積極的に協力するとともに、自主活動として幼児健診会場に布おもちゃを持参しふれあい遊びを提供したり、折り紙で作った駒などを使い、安心して過ごせる雰囲気づくりを心掛け、また積極的に親子への声かけも行っている。母子保健推進員だよりの作成にも取り組むなど、母子保健活動の推進に寄与。

【山梨県】池壽恵（助産師）S52から約４年間にわたり総合病院に勤務して産婦人科、外科、精神科などの現場を経験するなかで母子保健の重要性を知り助産師学校に入り免許を取得。病院勤務を経た後、行政の新生児・妊産婦訪問事業に従事し、母子保健活動に積極的に参加。その豊富な経験から、地域の母子から絶対的な信頼を得ている。R１からR３まで県助産師会の理事に就任、後輩の指導に当たり、また産前産後ケアセンター「ママの里」にも勤務するなど、母子の健康のために幅広く尽力。

【岐阜県】加納芳郎（医師）県小児科医会は岐阜地域を中心にその活動を行ってきたが他の地域の医会とも交流を図ることが必要とされ、そのため、岐阜県小児科医会会長として県内の小児科医が集い議論し発展させるための場を作った。また保育園、幼稚園の園医、小学校の校医を歴任して幼児及びこどもの健康を推進するため健診、相談などに力を入れた。医会フォーラムの企画運営に積極的に参加し、母子保健の推進に医師のかかわりを明確にした功績は大きい。

令和５年度 全国集会シンポジウム全景

【岐阜県】濱昌代（歯科医師）病院勤務の後H13開業、小児歯科を中心に、妊婦の歯科疾患と早産や低体重児の関係など予防歯科にも力を入れ、「わは歯ニュース」として歯・口腔の健康づくりの情報の提供など地域の歯科医療に従事し住民の健康の維持増進に寄与した。市町村が行う乳幼児健診や歯科相談などの母子保健事業の推進に携わり、住民の歯科医療福祉の向上、公衆衛生知識の普及向上に努めてきた。また、岐阜県歯科医師会理事、日本歯科医師会理事、岐阜県女性歯科医師の会代表を務めるなど、その功績は極めて顕著である。

【三重県】山田順恵（保健師）S63から２名の保健師で予防接種、乳幼児健診、老人保健事業を実施。幼児健診で経過観察が必要な児の教室、相談事業を実施し、仲間づくりや育児不安の解消、療育支援につなげる等努めた。合併後、伊賀市こども発達支援センターの立ち上げに尽力し、保育所、小学校など関係機関と連携し、切れ目のない支援体制の整備に尽力。R３から母子コーディネーターとして母子健康手帳交付時から産科医療機関と特定妊婦、ハイリスク妊婦、産後うつなどの情報を共有し、妊娠・出産・育児のリスクに早期から関われるような支援体制を充実させるなど、実態に則した母子保健の向上に尽力。

【滋賀県】卜部優子（医師）H９産婦人科医師となりH18より高度な医療を地域のために行う現在の病院に勤務。ハイリスク分娩に携わり大学病院や赤十字病院との連携により安全に妊娠、分娩ができるよう管理。産後ケアの対応では市の保健師に連絡を取り孤立することのないよう地域と連携して支援。医療センターの統括部長の現在も、母体や新生児蘇生のための講習を定期的に受講するなど最新の技術の習得も行う。高校、養護学校などで性教育の講義も行い地域母子医療に幅広く貢献。

【滋賀県】板谷裕美（助産師）病院勤務時代は妊婦健診に全例面談を取り入れ助産師外来の先駆けとして母子に寄り添い、大学教員としては教育・研究活動を通して母乳育児に不安を抱える母子へのケアや産後ケアの支援体制構築に向けた研究を行い、助産師のキャリア発達に寄り添う支援に貢献。特に妊娠・出産・育児の切れ目のない支援体制構築のため保健師と共同研究を行い、アウトリーチ型サービス内容のニーズ調査では「産後ママサポートチケット」の利用率向上に向けて尽力。県助産師会の委員や役員を歴任、講演活動も行うなど助産師活動、会の発展に尽力。

【大阪府】神田淳子（助産師）S57より病院勤務、H５より市の新生児訪問、要育支援訪問、妊婦教室等に従事。H12からは府の子育て女性の健康支援センターでプレパパプレママ事業、母子訪問、思春期教育などに従事。併行してH13に助産院を開設し母乳育児相談教室を開設。さらに市の委託で地域子育て支援事業「おひさまサンサン

広場」責任者、R３からは災害対策委員会委員長。常に行政保健師と連携しながら妊産婦にきめ細かな支援を続ける。災害時に被災した母子の避難場所として会館２階に福祉避難所を整備中。

【大阪府】西本裕紀子（管理栄養士） S61に大阪母子医療センターに入職後から疾患を持つ養育者の栄養食事支援に携る。当初小児栄養は基準もなく未開発な分野で指導は1990年代は年200件程度であったが2019年以降は5,000件を超える。その間学位を取得し栄養不良による低身長児のエネルギー代謝と三大栄養素の摂取に関する研究など、研究成果を日々母子支援に活用。毎年多数の小児栄養・母子保健・食育に関する講演・執筆活動により医療のみならず福祉、教育、行政で小児に携わる人材の育成にも尽力。

【岡山県】菅野和子（愛育委員） H９に愛育委員に就任、H19から現在まで18年間会長として地区内の各組織の連携を図り関係団体の協力を得ながら組織一体となった住民の健康づくりの取り組みを推進。各地区で実施しているミニ健康展では、毎年乳がん検診の啓発に取り組む等、地区住民の健康づくりに根気強く継続した活動を展開。さらに、地域の団体と協働で実施している親子サロンで乳がん検診の受診勧奨や自己触診法の啓発を行うなど、地区の実情に合わせた子育て支援や高齢者支援、精神障がいに対する偏見除去等に長年にわたり取り組み、他の委員からの信頼も厚い。

【山口県】桝冨清美（母推） H４から活動、今年で34年目となる。住民に積極的に声掛けを行うなど身近な相談役。地区のリーダーとしても率先して活動を行い、育児サークルの主催・運営、行政の育児相談事業への協力、乳児家庭全戸訪問事業では、情報提供、養育環境などの確認、あかちゃん応援給付金の案内を行うなど、必要に応じて行政や関係機関へ情報提供するなど行政とのパイプ役を担い、地区住民や他の母推から信頼が厚い。

【香川県】安部紀美枝（母推） H23より活動。妊娠後期の妊婦や産婦、転入してきた家庭の乳幼児を中心に家庭訪問を行い、地域の子育て情報や市の母子保健事業の情報提供を行い、必要に応じて地区担当保健師に繋ぐなど、行政と連携した活動を行う。両親学級では沐浴実習の補助を、また地区コミュニティと協力して毎月1回地区コミュニティセンターで実施する子育て支援事業（子育て広場）に従事し、身体計測や声掛けを行い、また歯みがきの前段階として「乳幼期から始めるおくちのマッサージ」を母推で作成し地域活動で活用。効果的な事業運営や地域づくりに貢献。

【愛媛県】大谷香代子（保健師） 母子健康手帳交付時から母子健康管理台帳を整え、母乳栄養の啓発や家族計画指導を行う。乳幼児健診の受診勧奨に努め、健診後は身近な場所で発達支援等のフォローが受けられるよう言語・療育の個別教室を開設、保護者の不安軽減に繋げた。保育所、小・中学校で料理教室・歯科教室・小児生活習慣病健診等を実施し、保健師・栄養師・養護教諭の連絡会を立ち上げるとともに、小児生活習慣病の事後指導や思春期保健講座の開始、発達支援教室の継続など学校保健との連携を強化した。県下初の子育て世代包括支援センターの開設に尽力し、主担当として全妊婦の把握や継続的な支援のため、包括担当保健師と地区担当保健師が連携できる体制を整えたことによりきめ細やかな支援につなげることができた。母子保健全般の推進に尽力し、その貢献は大きい。

【愛媛県】藤田恵女（保健師） 入庁以来母子保健事業に積極的に携わり、特に両親学級や育児講座にカウンセリング技法を取り入れたワークショップを取り入れ事業化を図る。発達障がいやその保護者に対する相談支援にも力を入れ、学校への巡回相談を実施。全ての園を巡回し年長児に対する構音検査を行い発達に課題のあるこどもの早期発見・支援につなげている。また、保育園や幼稚園における支援者のスキルアップを図るため、講座の事業化や医療的ケア児の入学に向けた支援(ガイドブックの作成等)ほか多岐にわたる活動で成果を挙げ、その功績は大きい。

【佐賀県】松尾美佐子（母推） H13より伊万里市母推として20年以上活動。コロナ禍の赤ちゃん訪問は時間を短縮して実施したが、母親に少しでも安心してもらおうと手づくりプレゼントをお母さんに渡すことを提案。デジタル時代にあえてアナログのよさを伝えたいと伊万里市のマスコットキャラクターの「いまりんもーもちゃん」の顔が浮き出る「いないいないばあ」カード作成のアイディアを出すなどリーダーとして大いに貢献。現在もカードづくりは継続し、カードづくりを通して母推の連帯感が生まれ、活動が活発になった。伊万里市母推副代表、佐賀県母推協議会伊万里支部理事。

【佐賀県】山下幸子（母推） H17より千代田町(現神埼市)母推活動をはじめ、R５年度まで市協議会会長を務めるなどリーダー的存在。育児イベントや地区行事など母子保健事業に積極的にかかわり、子育て世帯と行政との橋渡し役を担い、母親の育児不安や孤立を予防することに尽力。母子への声掛けや細やかな気遣い、頼りたくなる温かい人柄により、子育て中の母親が安心して子育てできる雰囲気づくりを行ってきた。地道な活動で地域の親子や行政からの信頼も厚い。

【佐賀県】川原由江（母推） H15から神埼町(現神埼市)において母推として活動。H20年度から5年間市協議会会長を務める。母推の他にも、放課後子ども教室推進事業（ドリームパーク）勤務、民生児童委員、子育て支援センター勤務など長期間にわたり親子の支援に係るさまざまな活動を担う。また育児イベントや地区行事にも積極的に協力し子育て世帯間の橋渡し役となり、育児不安や孤立を予防することに尽力、神埼市で子育てができてよかったとの声も寄せられるなど地域での親子支援に幅広く貢献。

【佐賀県】船﨑まゆみ（健康推進員）H11より多久市健康推進員として、母子保健のみならず成人の健診の受診勧奨など担当地区の健康推進に尽力。「こんにちは赤ちゃん訪問事業」としての家庭訪問のほか、乳幼児健診未受診者や転入者への訪問を行い、また予防接種の確認や兄弟児の様子も聞くなど看護師としての経験を生かした訪問を行う。「養育支援事業」では行政と密に連携して技術的援助で当事者に安心感を与え、こんにちは赤ちゃん訪問では手づくりのタオル人形を渡し、乳幼児健診ではこどもの椅子を牛乳パックで手づくりするするなど、高い専門性と親しみやすさで、母親、他の推進員からも信頼が厚い。

【長崎県】川村たまき（母推）H22から在住している離島地区の母推に就任し、自身も子育てしながら、母子相談や赤ちゃん訪問など母子保健事業に積極的に協力・従事した。妊産婦・子育て家庭の身近な相談者として寄り添った活動をしており、島内の家庭について良く把握し、保健師などと連携して支援するなど地域の母子保健の向上に貢献。市内の本土部に転居後も、離島地区の母推活動を継続して行うなど市民や行政から厚い信頼を得ている。

【熊本県】森田佳子（保健師）S61、五木村で初の保健師として奉職。全村民を対象に乳幼児期から高齢期まで、地域に根差した切れ目のない活動を行う。乳幼児健診に心理士による発達検査と相談を導入し保護者の不安の軽減に努め、関係機関と連携しフォロー体制を整え、継続した支援を可能にした。小中学校養護部会に参画し、フォローの必要な生徒の乳幼児時期の情報交換や学校へ専門職と同行訪問して支援を行うなど、地域に密着した活動を展開。各種事業の中心的な立場として地域の関係機関と連携して住民の生活に寄り添ったきめ細かな子育て支援体制の整備に取り組んだ功績は大。

【宮崎県】渡邊由香（母推）H23より延岡市母推。家庭訪問などの機会に子育ての情報提供、乳児及びその母親の心身の状況及び養育環境の確認、乳幼児健診未受診者への受診勧奨など積極的に活動を展開。また育児不安を抱える母親への寄り添いや傾聴、また支援を必要としているケースは早期に保健師につなぐなど、子育て支援のために地域に密着した母子保健活動に尽力。歯科衛生士の資格を有し乳幼児期からのむし歯予防への周知や啓発を積極的に行い歯科保健の発展にも寄与。本市の母子保健サービスの向上への貢献大。

【鹿児島県】赤崎昭朗（理学療法士）S59から理学療法士として病院勤務後、H９より保健所にて児の発達支援に関わり、その後市町村の6-7か月育児教室や発達相談会・親子教室での相談支援での相談・支援に27年間にわたり尽力され、時には、双子の家庭訪問や健診未受診者の訪問にも保健師と同行され、個別のニーズにもきめ細やかな支援活動に尽力された。また県内の療育施設での親子相談も行い、他職種と連携した児の発達支援にも携わり、さらには後継育成や小学生の姿勢に関する支援を医師と一緒に早期の支援活動ができるよう検討。理学療法士の視点から母子保健、小児の健康に大きく貢献。

【沖縄県】知花末子（母推）H16から読谷村母推として活動。乳幼児健診や健診未受診者訪問などさまざまな母子保健事業に協力。また自身のスキルアップのために毎月の定例会や研修会などへも積極的に参加し、欠席した母推へ研修の内容や重要性を伝えるなど母推全体の質の向上に取り組んでいる。母推の世話人役を２年間務めるなど、活動を円滑に進めるためにも地域の母親たちの身近な良き相談相手となり住民と行政のパイプ役として活動してきた功績は大きい。

【沖縄県】城間末子（母推）H13より活動。市の実施する母子保健事業に積極的に協力し、特に乳幼児健診の未受診者の受診勧奨活動を精力的に行い、保健師につなぐなど行政とのパイプ役として活動。ほか乳幼児健診、２歳児歯科検診などにも積極的に協力。明るくやさしい人柄で地域住民からも相談しやすいと親しまれている。また協議会の理事を複数年務めるなどまとめ役としても活躍。後輩母推の助言役でもある。母推のほか民生委員・児童委員、ウスデーク保存会会長、老人会会長も務めるなど地域活動に尽力。

【さいたま市】平田実千（歯科衛生士）「病んでいる歯を持つ子どもを診るのではなく歯を持つ子どもを診る」という保育歯科学の教えを歯科衛生士の立場で実践するため、歯だけでなくこども全体を捉えた包括的な歯科保健活動に取り組む。歯科専門職だけでなく、母子保健に関わる他職種との連携を重要と考え円滑なコミュニケーションに尽力。虐待予防については口腔状態からネグレクトの早期発見につながった事例があり、保健師と連携したケースの見守りを実施。ほか障害がある児や在宅長期療養児の訪問歯科保健指導にも注力するなど、多職種と連携し一人ひとりの生活に沿った歯科保健活動に尽力。

【千葉市】小嶋綾子（地域保健推進員）H15より活動。地区担当保健師と密に連絡をとり、生後2か月の赤ちゃんのいる家庭訪問を実施。また子育てに悩んでいる保護者から真摯に話を聞き必要な時には保健師に連絡するなどし、子育てに関する不安の軽減に努めている。また自治会や老人会でのボランティア活動に携わったこともあり、地域住民からの信頼のもと現在も活動を継続。21年にわたる地道な活動は地域の母親たちに安心感を与えている。

【新潟市】齊藤里佳（助産師）約10年にわたり総合病院産婦人科、NICU等での勤務経験を活かし開業助産師として約20年、母親と児・その家族に寄り添い、産後の母子訪問や出産準備教室、健診業務、公民館での幼児や保護者向けの講座の講師、商業施設での育児相談など地域に根差した母子保健業務に従事。10年前からは小学校で実施する「いのちの授業」に携わり小中高校への「生と性の思春期教育」に出向き、命の大切さや自分自身を大切にする心と身体の健康教育活

令和５年度 全国大会における活動展示

動に携わる。さらに教育機関関連への教育にも力を入れ、青年期学生への心と身体の相談業務を行うなど、母子保健事業に幅広く貢献。

【浜松市】白井まなみ（助産師） 産科病棟で培った保健指導経験を活かし、H14から保健活動協力員として活動。H17に助産院を開業した後、浜松市のこんにちは赤ちゃん訪問、親子すこやか相談、産後ケア事業等母子保健事業に積極的に従事。またH15年から20年間にわたり幼稚園･小・中学校に「生」と「性」の性教育も実施し「いのちの大切さ」を教えている。親子活動を積極的に取り入れ自己肯定感の大切さを伝え「生まれてきてよかった」と実感できる講演は年間30件ほどあり､これらの取組はＮＨＫ「おはよう静岡」ネット版「クローズアップ現代」でも取り上げられた。

【神戸市】塩田まゆみ（助産師） 東灘区の「命の感動体験」事業には立ち上げより関わり、命の教育や子育て支援事業に積極的に取り組む。また西宮市及び神戸市の産後ケア事業に携わり、授乳相談、乳房ケア、育児相談、離乳食相談、リラクゼーションなどの指導の時に他のママとの交流を通して質の高い離乳食の相談が受けられ、充実したケアが提供できるよう尽力。さらに助産師会における母子保健・思春期保健活動にも積極的に参加し､事業の発展と充実に寄与した功績は大きい。

【岡山市】妹尾裕美（歯科衛生士） H６より市の保健センターで歯科保健活動に携わる。おやこクラブや児童館、公民館、幼稚園保育園など親子が集まる場での健康教育を実践。子育て中の親同士がつながりをもって歯と口の健康について情報交換が行えるよう、仲間づくりを通じたフッ化物洗口事業の普及と支援に努め、母子歯科保健活動に尽力した。住民主体の健康づくりボランティアに対しこどものむし歯に係る地域の健康課題の解決に向け、住民主体の健康学習を通して住民による情報紙の作成や紙芝居を用いた親子への啓発など、対象者に沿った普及活動に尽力。

【福井市】相模智栄（保健衛生推進員） 福井市のベッドタウンを担当し若い人が多い地域で、主に母子保健の活動を中心にH26年より活動。長く「こんにちは赤ちゃん訪問」に従事してきたがコロナ禍で中断、R２からは、子育て広場や子育て支援センターの諸事業に携わり、母と子への声かけや見守りを実施。未就園児とその保護者を対象に孤立する母親の支援に尽力。また地域の全般な健康問題にも「健康づくりの身近な窓口」として、地域に密着しながら地域の健康問題を発見し、行政と地域のパイプ役として尽力。

【松山市】高橋知子（母推） H21より14年間、こんにちは赤ちゃん訪問事業で乳児とその保護者に対して真摯に対応して、安心して育児ができるように努め、事業の推進に尽力。また主任児童委員、小学校評議員、公民館運営委員、人権啓発推進員など数多くの地域活動をしながら母子保健推進協議会の事業にも積極的に参加、現在乳幼児とその保護者に対する支援を続けている。細部にまで目が届き、信頼も厚く、責任感も強くそして人間関係を円滑に導くことができる資質の持ち主である。

【那覇市】山城初枝（母推） H16から那覇市母推として20年間にわたり行政とのパイプ役として各種母子保健事業に積極的に参加し、保健師と連携しながら地域母子保健の推進に大きく貢献している。小中学校での思春期教室では保健師との連携のもと生命の尊さや喫煙が胎児に及ぼす影響を伝える。また保育ボランティアを行ったり、活動でつながった発達特性のある子を持つ親子の相談機関への同行等、子育て世代の困り感に寄り添った活動を展開。また定例会や研修会に参加して自らの資質の向上を図り、市の母子保健推進協議会運営にも理事として携わるなど、他の母子保健推進員からの信頼も大きく頼りにされる存在。

【中央推薦】蛯名勝之（歯科医師） H21より東京都新宿区歯科医師会公衆衛生担当理事に就任。新宿区における幼児のむし歯予防を行うと共にフッ化物塗布事業を確立。さらに幼弱永久歯のむし歯予防のために学童期への事業の拡大を図った。要介護者の実例に合わせただれにでも理解できる教育用ＤＶＤの制作を行い訪問看護ステーションなど関係各所に配布､普及に努めた。また、日本歯科医師会地域保健委員会副委員長として、全国関係者へのアンケート調査を行い全国各地域の事業の進捗状況、問題点の抽出を行うなど、地域の母子保健を含む保健活動向上に大きく貢献。

団体の部

【徳島市】特定非営利活動法人子育て支援ネットワークとくしま（代表・松﨑美穂子）「あったらいいな」の想いを事業化し、乳幼児を持つ母親の立場で気軽に立ち寄りホッとできる居場所「子育て安心ステーションすきっぷ」を商店街の空き店舗に開設し、誰もが交流出来る子育て支援拠点の運営に尽力した。助産師が積極的にかかわり、孤立を感じやすい環境にある子育て家庭の支援を積極的に実施。また移動子育て広場の開設や父親の子育て支援、学生を対象にした子育て講座など、時代のニーズに応じた子育て世代と地域の交流を図り、コミュニティの形成と地域の活性化に大きく貢献。

紙上セミナー SEMINAR

8020の里づくり

子どもの口の機能の発達

「呼吸する機能」「食べる機能」、「話す機能」が十分に発達しているのか、気になりますよね。

わが子の発育は大丈夫なのだろうか？遅れてはいないだろうか？最近は正常にこうした機能を獲得することができず、咀嚼や嚥下がうまくできない、構音の異常がある、口呼吸が認められることなどが問題となってきています。どのような機能がどのように発達していくのか、再確認してみましょう。

呼吸する機能

呼吸は生まれた直後から始まります。口は呼吸路として重要な役割があります。

乳幼児の場合、新生児期、乳児期前半は授乳・哺乳時に鼻呼吸状態となっています。人間はもちろんのこと、哺乳類は鼻呼吸が基本です。口で呼吸することができるのは人間だけなのです。

もし、口呼吸が習慣化してしまうと口の周りの筋力低下による噛み合わせの不正等を誘発し、食べることや話すことなどの機能の発達に影響を及ぼします。

口呼吸の原因として、鼻呼吸を妨げるような口蓋扁桃等の肥大がないか、睡眠時にいびきをかいていないか、あるいは習慣的な口呼吸なのか、確認が必要となります。

食べる機能

乳児期前期は歯がない時期です。乳児は出生後、哺乳によって栄養を摂取します。

新生児期、乳児期前半は原始反射を中心とした乳児嚥下（舌を前方に突き出すのが大きな特徴です。赤ちゃんはお母さんの乳首を吸って、効率よくおっぱいを吸うために、このような形で口をひらいたまま嚥下をします）となっています。乳児期後半は、哺乳による乳児嚥下と離乳食への移行による成人嚥下（舌を後方へと引き下げて、咀嚼によって生じた食べ物の固まりを喉の奥へと送り込む動作が主体となります。嚥下の最中は口を閉じています）が混在する時期です。

通常は５～６か月頃に離乳食が開始されます。口唇と顎を閉じて捕食、嚥下することが可能となり、食べ物を食べる時には下唇を内側に巻き込んで飲み込む動きが認められます。７～８か月頃には舌による押しつぶし機能が獲得されます。

生後８～９か月頃に乳切歯の萌出が開始し、口の上の部分が高くなり、上下的な口の中の容積が広くなります。

９～11か月頃には口の上の部分が左右に広がり、水平的な口の中の容積が広くなります。歯ぐきによるすりつぶし機能が獲得されます。

１歳３～４か月頃には最初の奥歯である第一乳臼歯が生え始め、１歳６か月頃には奥歯を使って噛むことができるようになります。

１歳６か月頃には乳犬歯、２歳過ぎには第二乳臼歯も生えてきます。まだ噛み合わせは不安定です。噛む力も小さいですが、萌出が進むにつれ噛み合わせは安定し、噛む力も強くなり、食べることのできる食品が多くなります。

食べ方のマナーの習得をこの時期から実施するのも、これからの社会生活に役立ちます。

話す機能

クーイングとは、口腔内が発達したことで出る音のことで、「あー」「うー」というような母音を中心とした音のことを言います。喃語（「ま

まま」「ばばば」など、子音+母音の連続する音）の前の２～３か月頃に出す音といわれています。

そして、生後４か月以降は喃語が出現してきます。とてもかわいい時期です。１歳を過ぎたころには「わんわん（犬）」「ぶーぶー（自動車）」などの一語文・二語文、１歳半頃～２歳半頃には、「わんわん、いた」「まま、ねんね」のように、意味のある言葉が２つ続く二語文を話し始めます。大人が教えていくことにより、たくさんの言葉が獲得されていきます。

赤ちゃんとたくさん会話をすることで、赤ちゃんにコミュニケーションの楽しさを教えてあげると良いでしょう。

初期のうちは正しく発音されないことが多いですが、たくさん会話をすることにより反復して耳で覚え、発音も正しくなっていきます。

発音機能の発達の遅れや問題は、家族や友人、社会生活におけるコミュニケーションにも影響を及ぼし、生活のしづらさを感じたり、社会生活に不安を持つことにつながります。

このような場合は日常的に口を閉じることができているか、舌小帯や顎の発育、咬み合わせの異常の有無はないか等を確認しましょう。

このように歯・口には様々な役割があります。保護者は、なかなか歯が生えてこない、うまく食べることができていないような気がする、変な話し方をする等、悩みを持つことがあると思います。すべてが発達不全ということではありません。発達に関しては個人差がありますので、成長を見守るのも大切です。

公益社団法人 日本歯科医師会
地域保健委員会委員　根本 充康

8020 ひとくちメモ　味覚の発達

「味覚」とは、「甘味」「塩味」「うま味」「酸味」「苦味」の５つの基本味。それぞれ、体に必要な情報を伝える役割を持っています。

「甘味」はエネルギーの基本になる糖分の存在、「塩味」は体液のバランスを保つミネラルの存在、「うま味」は身体をつくるタンパク質の存在を伝えるので、本能的に子どもたちの好きな味覚となっています。逆に「酸味」は腐敗していること、「苦味」は毒が含まれていることを伝えるので、子どもたちが嫌がる傾向にあります。本能的に有害だと判断しているためです。

味覚は３歳までに身につけることが大切です。これらの五味を感じるのは、舌の表面にある「味蕾（みらい）」という感覚器官で、微妙な味の違いを認識します。

現在の食事には、味覚を鈍麻させてしまうリスクが多く潜んでいます。ジャンクフードや濃い味、塩分や脂肪分が多い食事により、味覚が鈍ってしまうので食事の味付けにも気を配りましょう。

歯科保健指導用教材　A4ヘルスシート

指導監修：公益社団法人 日本歯科医師会地域保健委員会

１枚 20円（税別／ 100枚単位）

歯科保健指導用パネル※をＡ４判表裏に縮小しました。手元において、いつでも見られる配布用教材としてお勧めです！

【歯科パネル　全７シリーズ】

※1000枚単位でご希望のパネルの組み合わせで承ります。

①妊娠期マイナス１歳からの口腔ケア　②離乳期お口の発達と食育支援
③幼児期楽しく食べる子に育てよう　④学齢期お口の健康と生活習慣
⑤むし歯のなりたち　⑥こどものむし歯予防
⑦フッ化物でむし歯予防

表

①妊娠期 マイナス１歳からの口腔ケア

裏

②離乳期 お口の発達と食育支援

子育て“ピアカフェ”を開催して

NPO法人とちぎみらい with ピアの活動から

私たちのNPO法人は、この世に生まれた一人ひとりが生まれ持った性を大切にしながら、仲間とともに輝く未来を切り開いていけるように…誰一人取り残されない社会へ　思春期の若者及び妊娠期からの切れ目のない子育て世代と彼らを支えるすべての人々に対して、ピア（仲間）同志の支えあい：ピアサポートによるエンパワメント向上に関する事業を行い、人生の夢を実現しながら生き生きと健やかに暮らせる未来、社会を目指す地域づくりに寄与することを目的に、平成30年12月に設立しました。今年度で６年目を迎えます。

設立して間もなく新型コロナウイルスが蔓延してイベントや集まりが中止となり、また、外出を控え、仲間と交流する場所が奪われて孤立した母子増えてきた現状を知り、何か出来ないかと考えました。ママの心のサポートにエンカウンターを通して心を開くリフレッシュママクラスは以前から行っていましたが、孤立したママには、まず仲間づくりを中心とした活動が必要ではないかと考え「子育てピアカフェ」を考案し実施しました。

この子育てピアカフェは、住み慣れた地域で、多様な子育てができる仲間を発見して、一緒にいきいきとつながり子育できる力を育むことを目的にした事業で、孤立しているママが交流して、今悩んでいる子育てについてワールドカフェ方式で語り合う事業です。お子さんも一緒に参加します。

子育てピアカフェは、当日初めて会ったママが集まり緊張のなか始まりますので、まずリラックスして安心して心を開いて、自由に話せる雰囲気を作る目的でオープニングセレモニーを行います。コロナ禍のため肘でタッチして互いを近く感じ、次に「愛する人へのプレゼント」としてハーバリュウム（オイル漬けしたお花をガラスの瓶に入れ飾る）を作成します。「どの花がかわいくできるかな」などと考えながら瓶に詰めていきます。お子さんを抱きながら、またはお子さんと一緒に作業をするなどさまざまです。完成したらメッセージカードを添えます。

悩みを聞いてもらえたので また息子と向き合って

話し合える雰囲気が整ったところで「ピアカフェが」始まります。４人１グループ、ワールドカフェ方式で５分を２回、グループを変え行います。テーマ１「今子育てで困っていること、悩んでいること」、テーマ２「仲間とともにいきいきと子育てするために」について話し合い、元のグループに戻りシェアリングをします。皆さん積極的に語らい、テーブル上の模造紙には皆さんの意見が一杯です。

O市で開催した際は、コロナ禍での開催について市と何度も協議し、感染予防対策を充分にして開催しました。人数は少なかったですが、参加者の中にはどうしても参加したかったとバスを乗り継いで参加された方もいました。参加者からは「悩みを聞いていただけて、アドバイスをいただけたので、また頑張って息子と向き合っていきたいと思います」「悩みを相談できてすっきりした、こんな集まりがもっと欲しい」などの感想が聞かれました。

パパ対象の子育てピアカフェを

U市では、R３、R４年度に開催しました。R３年度の参加者はママのみでしたが、R４年度は初めてパパと一緒に参加された親子が２組いました。ママの声かけで参加されたそうです。ママがハーバリュウム作成中は子どもを抱っこしてサポートし、ピアカフェに時には、参加して積極的に意見を交換していました。

参加者より「子育ての悩みをなかなか他の人に聞いてもらう機会がないので、少し気持ちがすっきりした。」「皆さんも同じように子育てで悩んでいることがわかり，がんばろうという気持ちになった。」「知らない人と話すのが苦手だが，皆さん積極的に話していて素敵だと思った。」「たくさんの人と話すことが大切だなと感じた。」参加されたパパから「もう一人パパが参加していて、いろいろな情報がもらえ参考になった」「今度はパパ同士で話えるカフェがあるといいと思う」などの感想をいただきました。

今後は、子育てに主体的に関わるパパの拡大のためにも、パパ対象の子育てピアカフェ行っていきたいと考えています。

特定非営利活動法人とちぎみらいwithピア
子育て事業リーダー　福田　環

「8020の里賞（ロッテ賞）」決定！

創意工夫に満ちた活動 手づくり媒体に

乳幼児期からの健康づくりの重要性の啓発と、地域活動の一層の活性化を目的に実施している「8020の里賞（ロッテ賞）」の各賞受賞団体が決まった（右表）。本顕彰事業は、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本歯科衛生士会、全国母子保健推進員等連絡協議会の後援、株式会社ロッテの協力のもと、平成21年に始まり、今年で16年目となる。審査委員は、実施団体からそれぞれ推薦された、委員長に山本秀樹公益社団法人日本歯科医師会常務理事、委員は、長優子公益社団法人日本歯科衛生士会理事、清水和正株式会社ロッテホールディングス渉外課課長代理、佐藤拓代公益社団法人母子保健推進会議会長、鑓溝和子理事長の５名が務めた。

今年度応募された活動・制作物は、いずれも対象者を鑑み（寄り添った）創意工夫に満ちたものばかりだった。

優秀賞２団体のうち藤沢市は、こども向けのエプロンシアター、手づくりボードのおやつ選び、歯磨き啓発用パネル、歯磨きポスター、咀嚼嚥下のメカニズムを示す媒体、食育と歯に焦点を当てた紙芝居、年長児用パターンの７作品。いずれも手づくり感満載ながら、対象ごとに理解しやすい工夫がなされている。

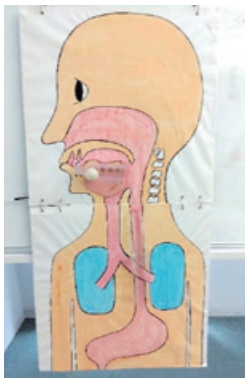
マザースタイル（兵庫県西脇市）の活動は、幼児に対してバランスよく食べることの大切さを伝えるべく、さいころを振り出た色を食材が描かれたカードを働き別のボードに貼る。「持ち帰りグッズ」を年齢別、保護者向けに作成。学んだことが家庭でも長続きする工夫がされている。

	団　体　名	都道府県	媒体の種類
優秀賞	藤沢市歯科衛生士の会スマイル／藤沢市健康づくり課	神奈川県	生涯大切な歯を守るための啓発手づくり教材
優秀賞	西脇市子育て支援グループマザーズスマイル	兵庫県	健康劇
佳作賞	嬉野市母子保健推進協議会	佐賀県	歯みがき教室／むし歯予防紙芝居
佳作賞	豊見城市母子保健推進員協議会	沖縄県	つながる命（胎児模型・パネル）
奨励賞	都留市愛育会	山梨県	手洗い指導の教材
奨励賞	一社)福岡県助産師会久留米地区	福岡県	子どもの歯の手入れQ&A

佳作賞の２団体のうち嬉野市母子保健推進協議会は、むし歯予防を目的とした手づくり紙芝居にペープサートや身近な道具で効果音を付けるなどした。豊見城市母子保健推進員協議会は、０か月から10か月の月ごとの胎児模型とわかりやすく解説したパネル。頭を重くしたり、子宮と羊膜、胎盤、へその緒を作りセットし取り外せるパーツもある。

奨励賞の都留市愛育会は、園児が替え歌に合わせて手を洗い、手洗いチェッカーで確認する。福岡県助産師会久留米地区は、こどもの歯の手入れについて、Ｑ＆Ａ方式の冊子を作成した。

エプロンシアター


咀嚼嚥下を示す媒体

年齢ごとに作られた食育健康劇。持ち帰りグッズも年齢ごと、保護者用も作成

サイコロを振って出た色の食材を貼る

月齢ごとに作られた胎児模型

紙芝居はペープサートや効果音とともに

令和６年度 子育て世代支援者養成セミナーのご案内

本会議が約20年前に開始し、コロナ禍で中断しておりました「子育て世代支援者セミナー」を5年ぶりに開催致します。

こども家庭センターの設置が進められ、視点や専門性、経験値の異なる方々が、共に対象者に寄り添う今、寄り添い型の支援について、改めて体感しながら理論と演習で学んでみませんか？

期　日：令和７年２月14日(金)・15日(土)
会　場：東京都助産師会館5階　講堂
主　催：公益社団法人母子保健推進会議
後　援：こども家庭庁（申請中）
公益社団法人 日本助産師会（申請中）
対　象：保健師・助産師・保育士・自治体
母子保健担当者等関心のある方
受講料：5,000円（税込み／宿泊・食費別）
※日本財団の助成により本年度は特別料金

＜お問い合わせ・お申込み＞
E-mail　bosui@bosui.or.jp
タイトルにセミナー名を入れていただき
①お名前　②所属　③職種　④連絡式メールアドレス　⑤電話番号
を記入の上お申し込みください。

1日目　令和７年２月14日（金）	
9：50	開会・オリエンテーション
10：00	講義Ⅰ 最近の母子保健を取り巻く状況（仮） こども家庭庁成育局母子保健課生殖補助医療係長　臼井　麗
10：40	講義Ⅱ「こども家庭センターと切れ目のない支援」（仮） 公益社団法人 母子保健推進会議会長　佐藤　拓代
（11：40～12：30　昼食）	
12：30	演習Ⅰ オープニング・エクササイズ
14：00	講義Ⅲ エンパワーメントとは～産前・産後を支援する人に必要な力～
15：00	講義Ⅳ・実習Ⅰ「構成的グループエンカウンターの必要性と実践 ～地域で母親同士が支え合っていくために～」
17：00	講義Ⅴ・演習Ⅱ「積極的傾聴スキルとしてのピアカウンセリングⅠ」
2日目　令和７年２月15日（土）	
9：00	演習Ⅲ　モーニング・エクササイズ
9：30	講義Ⅵ・演習Ⅳ「積極的傾聴スキルとしてのピアカウンセリングⅡ
（12：30～13：20　昼食）	
13：20	実習Ⅱ　「コ・カウンセリング実習及び振り返り
14：40	ピアカフェ　「今、求められている妊娠期からの寄り添い支援（仮）」 事例報告：行方市市民福祉部こども課課長補佐　西谷真理子
17：00	閉講式・修了証授与　17:15　終了

コースリーダー　髙村壽子　自治医科大学名誉教授
※講師名がないセッションは、髙村先生と高田昌代先生(公益社団法人日本助産師会会長／神戸市看護大学教授)が担当されます。

編集帖

「健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)」を、本年度は南国・鹿児島県で開催する。内閣府特命担当大臣表彰、各団体会長表彰の栄に浴された方々に、心よりお祝い申し上げます。

本号２～７ページでは、本会議会長表彰を受賞される方々の功績の一端を紹介しているが、紙面で紹介している功績は、ほんの一部であることは言うまでもない。加えて、その事業、活動を行うにあたって親子を想う気持ち、さまざまな背景を持つ妊婦さん、子育て中の方一人ひとりに寄り添い、少しでも安心して出産子育てをしていただきたいと願う想いは文字では表せない。しかし地域を回ってお話を伺っていると、なぜそこまで、と思うほどの熱意、温かさを感じることもある。行政、関係機関、地域でボランタリーに活動する方々、企業等がそれぞれの立場で、同じ想いを共有して親子を支える社会の構築のため、今般表彰される方々の背中を追い、努めていきたい。（Y）

発　行：公益社団法人　母子保健推進会議
発行人：鑓溝和子　編集人：髙村壽子
協　力：全国母子保健推進員等連絡協議会

東京都文京区音羽１－19－18
東京都助産師会館 4F（〒112-0013）
TEL.03-6902-2311　FAX.03-6902-2331
E メール bosui@bosui.or.jp
URL　http://www.bosui.or.jp

年間購読料 2,640 円（税〒込み）
母子保健推進員等特別価格
年間購読料 1,320 円（税〒込み）
郵便振替口座　00120-9-612578